

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（新紺屋地区）

日 時	令和8年7月10日（金）午後7時00分～午後8時00分
会 場	北東公民館 多目的集会室
参 加 者	53名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	・若者の人口流出対策について 山梨県及び甲府市の人口減少、特に若者の市外転出が深刻化しており、都市部への転出は就業機会・教育機関の豊富さが理由の一つであるとともに、進学・就職で地元を離れた若者のUターンが以前より減少しており、生産年齢人口の減少による経済成長への影響、少子高齢化が懸念されることから、市の若者人口減少対策の考えを伺う。
樋口市長	私は、本市の未来を担う若者が一人でも多く、地元に着定していただけること、あるいは、ふるさとを一度離れてもUターンなどで戻ってきていただけること、また市内の大学への進学を契機に本市に住み続けていただくことが、持続可能で活力ある地域づくりにおける大きな力になるものと捉えている。 とりわけ、新紺屋地区にある山梨大学とは、包括連携協定を締結する中で、産学官連携によるSDGsの普及啓発や次世代エネルギーの水素に関わる取組など、本市の様々な課題や未来を見据えた取組に学生にも関わりをもっていただけるように取り組んでいる。また、新たな取組として、学部再編の中で、行政、公務員の仕事もその中に入れて一緒にそういうことができるかと山梨大学との取組の準備をしているところである。 こうした中、本市では、若者をはじめ、甲府で生まれ育った方々の地元定着とふるさと回帰に繋げるために、郷土の魅力が歌詞に込められた「甲府市の歌」の普及啓発や一晩で数万人の方が来られる「小江戸甲府の夏祭り」をはじめとする四季折々のイベントなどを通じた“こうふ愛”の醸成に努めている。 さらには、本市における移住定住の促進を図るため、鉄道を利用して東京方面に通勤・通学する方に対する定期券購入費の

	一部補助のほか、地域企業の知られざる魅力に触れていただき地元就職につなげるツアーや合同企業説明会の開催、若者の就職先として注目度の高いスタートアップ企業の誘致などにも取り組んでいる。 加えて、結婚に伴う新生活のスタートに係る支援や子育て世帯を対象にした住宅取得等の支援など、若年層のライフステージに応じた経済的負担の軽減に努め、子どもを安心して生み育てられる環境づくりを推進するとともに、甲府城南側エリアや動物園の整備など、本市の持つ地域特性や地域資源を最大限に生かし、魅力的で賑わいのあるまちづくりにも取り組んでいる。 そして、第七次甲府市総合計画の策定にあたり、多くの小学生や中学生等に参画いただき、地域の担い手となる若者の夢や想いなどをアンケート調査やワークショップを通じて把握に努め、彼らの描く夢や想いを「希望ある未来を創り続けるまち」という都市像にも込めたところである。 今後においても、これまでの取組を継続的に実施するとともに、ご自身が生まれ育った愛着のあるまちで将来生活することのメリットや多くの地元企業の魅力の発信、大学との更なる連携による地域課題解決の取組などにより、若者に選ばれるまちづくりに努めていく。甲府には、高校や大学が集積しているので、そういった若者の声をこの10年聞き続けることが必要だと考えている。 ・リニア山梨県駅と甲府駅間のアクセス方法について リニア中央新幹線の実現に向けて、山梨県駅が甲府市の南、大津町付近に決定され、山梨県駅の起工式が行われ、5年後には完成する予定である。この山梨県駅と現在の甲府駅とは、約9km距離があり、この間を結ぶアクセスはどのようなになるのか、甲府市としての考えはあるのか伺いたい。 今週は静岡県知事がリニア工事の着工容認をしたとの動きがあったが、甲府市では、甲府駅とリニア駅という二つの拠点を結ぶ交通ネットワークの充実を図ることは、大変重要であると認識している。 本市では、「（仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針」に、両拠点間をスピーディーに結ぶ速達性、運行時間
質問	
リニア交通政策監	

質問 企画部長 意見	が正確な定時性、誰もが快適に利用できる利便性に優れた交通ネットワークの強化を位置付けており、本市をはじめ県内全自治体や交通事業者等で構成される「山梨県公共交通再編研究会」において、本市の考え方を共有し協議しているところである。 こうした中、現在、山梨県においては、国道358号（平和通り）をルートとしたシャトルバスによる接続に向けて、遠光寺北交差点付近の道路改良工事の進捗が図られているほか、一昨年末には「富士トラム構想」が公表され、新たな公共交通網における基幹路線の整備に向けた調査・検討が進められている。 今後、こうした検討結果を踏まえる中で、山梨県や関係機関、交通事業者と緊密に連携を図りながら、最適な交通ネットワークの検討を進めてまいりたい。 ・第六次甲府市総合計画の成果及び甲府市のポテンシャルについて 第六次総合計画での目標に対する達成状況の認識及びその結果について第七次総合計画へどう反映しているのか。 加えて、第七次計画冒頭記載の「本市のポテンシャルを活かした様々なチャレンジ」について、市が認識するポテンシャルの内容及び計画への反映について、教えていただきたい。 第七次総合計画は、3つの基本目標と、基本目標毎に6つの施策・318の事業が紐づいている。総合計画の達成については各事業の実績をもって評価をしており、第六次総合計画では、9割方は事業目標を達成しているが、達成できていないものもあり、例えば出生率は目標に達していない。 ポテンシャルを活かしていくという点では、リニア中央新幹線、新山梨環状道路等大型のハード整備事業があることから、これらの可能性をどう活かしていくかが本市の課題であると考え、その趣旨を「ポテンシャルを活かした様々なチャレンジ」という表記に反映している。 第六次総合計画の成果指標一覧を見ると、目標値に対して下振れしている、達成できていない指標が多く見られる。10年スパンの総合計画の指標設定自体が適切だったのかという検証も必要であり、目標値を高く設定し過ぎて未達となった項目と、
---------------------------------	--

樋口市長 (まとめ)	逆に十分達成できた項目等もあるはずなので、そういったものを踏まえて第七次総合計画を策定したという点が出てくるとつながりが分かりやすくなる。 また、第七次総合計画の3つの基本目標は、どの地方都市にも通用しそうな総花的な表現に見えるが、今日の説明では地域資源に関する話も出ていたので、甲府固有の地域資源やポテンシャルをどう活かすかという点を見えるようにした方がよい。 平日のこういった時間にお集まりいただき、また説明会に参加していただき、誠にありがとうございます。 いただいたご質問、本市の大きな課題についてご指摘をいただいたので、しっかりと受け止めさせていただきたい。 先日大きな地震があり、全ての避難所を開設できたが、時間的なタイムラグがあったなど、大きな被害はなかったが、調査させていただくことが多々あるので、しっかり取り組んでいきたい。 また、最後にご指摘いただいた、第六次総合計画の成果をどういうふうに活かしていくかということについては、毎年度ローリング方式でブラッシュアップし、ホームページ等でお知らせをするが、分かりやすく見ていただけていない部分があるかと思うので、今後もさらに工夫していきたい。 総合計画であるので、この下に例えば産業振興や多文化共生、子育て支援計画など、全ての事業ごとの計画がぶら下がっているの、そちらのほうで細かく事業の進捗管理をしていきたい。 子どもたちも含め、多くの市民の皆様に参加いただき、かなり時間をかけて作り上げてきたが、地方都市の課題には共通項があり、こういう形で作らせていただいている。今回は、『ひと』『まち』『魅力』という点で、それぞれ磨き上げをしながら、総括的にブラッシュアップしていく計画にした。 ぜひこれからも色々なご指摘をいただければありがたいので、よろしくお願い申し上げます。 貴重な時間をいただいたことについて感謝申し上げ、これから様々なことに地域参画をしていただき、私どもは市民の皆様の声をしっかりと聞きをしていくという姿勢をこれからも進めていくので、よろしくお願いする。
---------------	---

地区からの挨拶要旨	
新紺屋地区自治会連合会会長	誰もが幸せを感じ、夢を持って生き生きと暮らすことができるまちを、私たち市民と行政が一体となって、協働しながら進めていくという方向性が分かった。 市長をはじめ市職員には、これからも体に気をつけて、頑張ってください。